

アクションプラン1

実施項目	生徒指導（豊かな心・健やかな体）
重点課題	思いやりのある子供の育成
現状	<p>挨拶運動週間には、各学年が創意工夫した挨拶運動を行い、気持ちのよい挨拶を呼びかけている。一方で、挨拶週間以外には、自分から進んで挨拶をする児童に個人差がみられるため、集団登校や日々の授業等、日常的な挨拶から働きかける必要がある。</p> <p>また、「ほかほか週間」や人権に関する取組を通して、思いやりのある言葉かけや行動を意識する児童が増えてきている。一方で、自分の気持ちを言葉にして表現することが難しい児童もおり、まずは思いを表現するための様々な言葉や表現の仕方を知ることが必要である。</p>
目標	「自分が決めた目当てでの挨拶や相手を思いやる言動をしている」と評価する児童が、80%以上になる。
方策1	代表委員会が企画する挨拶運動を全校で実施し、よりよい挨拶の習慣化を図る。また、集団登校の挨拶や日々の授業の挨拶、配膳室での挨拶等、日常的な挨拶からしっかりと声を出して行うよう呼びかける。
方策2	学期に1回、全校で取り組む「ほかほか週間」を代表委員会が企画し、思いやりのある言動を放送や掲示で紹介する。また、朝読書で言葉集めを行うことで語彙を増やすとともに、ソーシャルスキルトレーニング等を通して、実践する場を設けることにより自己表現に生かせるようにする。
学校関係者 評価	運営協議会委員 保護者
公開方法	学校だより・学年だより・保護者会・ホームページ

アクションプラン2

実施項目	学習指導（確かな学力）
重点課題	対話力の育成
現状	<p>昨年度は、「話型（話す名人）」や「聞き名人ポイント」等を活用し、湖南タイムの中で定期的に「対話タイム」を設けることにより、話す順序やつなぎ言葉を意識して話したり、話し手と目をつないでうなずきながら話を聞いたりすることができるようになった。</p> <p>このような取組の中で、対話することに少しずつ慣れてきたものの、普段の授業の中で話型を活用して話したり、友達との話合い（対話）のよさやその必要性を実感しながら取り組んだりすることは難しかった。</p>
目標	「授業中、相手の伝えたいことを考えながら聞いている」「相手（友達）の話を聞いて思ったことや考えたことを、相手に伝えている」と評価する児童がそれぞれ 80%以上になる。
方策1	湖南タイムに「対話タイム」を設け、テーマ設定を工夫したり役割分担をしたりすることにより、互いの考えを表現し合う（話す・聞く）ことへの意欲を高める。
方策2	校内研修との関連を図りながら、学習形態を工夫（ペアやグループ活動、座席配置等）したり、子供たちが話し合う必要性を感じるように課題や発問を工夫したりすることにより、子供たちが意欲的に対話に取り組める授業づくりを行う。
学校関係者 評価	運営協議会委員 保護者
公開方法	学校だより・学年だより・保護者会・ホームページ

